

に疎食をくふなれば、食物の毒をうくる事なく、又世の中の事を見つき、つする事すくなければ、奢おごりをしらず、又いにしへより金銭の通用なければ、むさぼること、るうすく、兎にも角にも、心を勞する事すくなく、生涯無事に過る、おのづから仙境の趣有、心を用ひずして養生の道にかなへるなるべし、しかあれども、女多き島なれば、色欲に耽る事はなはだしと聞ゆるが、かの常にうまからぬ物のみくひ、又心を勞する事すくなく、形體すくやかなるゆへに、色欲の害もうすきにや、そも飲食男女の事をほしいまゝにし、それがうへに常に心をらうするもの、天壽をたもつもの、はあらし、されば男女の大欲も、常に美食をくらひ美酒をのみ、心を勞するほどの損はなきかとぞおぼゆる、八丈島にわたりて、わきで養生の理を思ひしるに似たり、さて、女は操正しく不義姪行をせず、またことづまをかさぬる事をたえてせず、たまゝ姪行不義ある女あれば、ともにまじはる事をせず、しかる故に、夫の不義をたゞす事、國地にて女を制するが如し、夫姪行あれば、いとからきめを見ると、なんいにしへ女護の島には、じめて男のわたりたる時の遺風にやとおかし、

〔南方海島志〕下。小島。

南北一里餘、東西二十許町、周回三里餘、在八丈島西二里、隸八丈、小島トハ八丈ヲ大島トシ、ソレニ對シタル名也。

形勝 一峯峩々四崖懸絶少シノ平地ナシ、一體石島故水ト薪乏シ、薪ハ本島ヨリ採ル。○中
青島。

東西三里餘、南北一里餘、在八丈島南十八里、隸八丈、古名鬼島、其人被髮長髮、身長色黑シ、被木葉狀如鬼神、吾邦古人怖ロシキ者ハ渾テ鬼ト稱セリ、上ニ擧ル沖島ニ鬼八人岸ニ登ル、ナド、意ヲニ西南ノ蠻人ナルベシ、而シテ爲朝公、此蘆葦多ク生ズルヲ見テ葦島ト改メ、後人アシノヒ、ミキヲ忌